



令和元年 6 月 12 日

報道機関各位

高齢者の歯の喪失

喫煙、糖尿病、骨粗しょう症でリスク増加

教育歴や職歴も関係

富山県認知症高齢者実態調査の結果より

富山大学地域連携推進機構地域医療保健支援部門は、平成 26 年に富山県が実施した富山県認知症高齢者実態調査の追加分析を行い、高齢者の歯の喪失に関する新たな知見を得ましたので公表します。

富山県認知症高齢者実態調査の対象者は、県内の 65 歳以上の高齢者から 0.5%無作為抽出された 1537 人のうち、同意の得られた 1303 人(同意率 84.8%)です。そのうち、今回の研究では、残存歯のない(歯を完全喪失した)275 人と残存歯がある 898 人の合計 1173 人を対象に、残存歯の有無と、教育歴や生活習慣病等との関連性を評価しました。敦賀市立看護大学の中堀伸枝助教、富山大学の関根道和教授らが分析しました。

その結果、喫煙、糖尿病、骨粗しょう症は、歯の喪失リスクを増加させることが分かりました。また、短い教育歴や肉体労働の職歴も、歯の喪失リスクが高いことが分かりました。

歯の喪失は、噛む力が弱まることで少食や偏食などによる栄養不良の原因となります。その結果、筋力が低下するなど虚弱になりやすく、高齢期における生活の質(QOL)を低下させます。今回の研究結果から、歯の喪失を予防して高齢期を健やかに過ごすためには、小児期から高齢期までの一生涯にわたる分野横断的で総合的な対策が重要であることが分かりました。

調査結果の詳細は、6 月 4 日に英国の医学誌 BMC Public Health に掲載されました。高齢者の歯の喪失原因を包括的に評価した貴重な研究と考えています。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学地域連携推進機構

地域医療保健支援部門長 関根道和

930-0194 富山市杉谷 2630

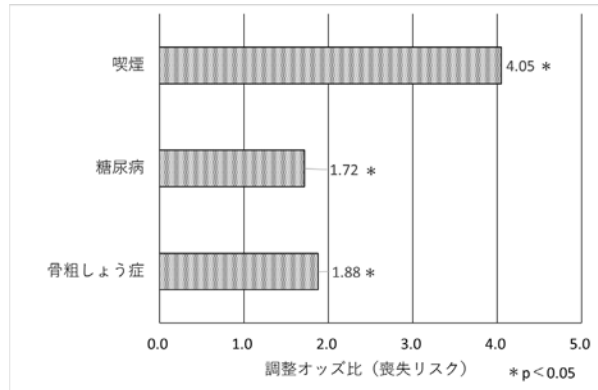
TEL 076-434-7270 FAX 076-434-5022

E-mail: sekine@med.u-toyama.ac.jp

(図1) 喫煙、糖尿病、骨粗しょう症があると歯の喪失リスクが増加

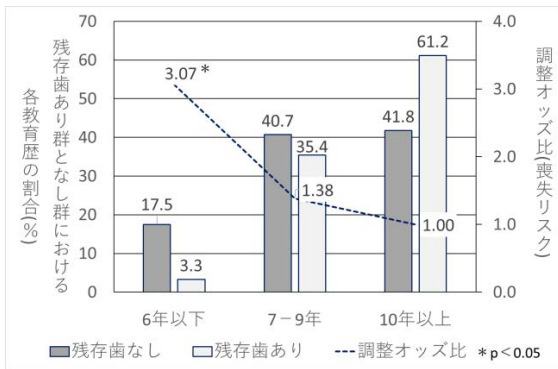
- 喫煙する人、糖尿病や骨粗しょう症の人の歯の喪失に対する調整オッズ比(リスク指標)は、それぞれ4.05、1.72、1.88でした。つまり、喫煙で約4倍、糖尿病や骨粗しょう症で約2倍の喪失リスクでした。
- 喫煙や糖尿病は、口腔内の免疫力を低下させ、虫歯や歯周病の原因となることが知られています。その結果、歯の喪失リスクが増加すると考えられます。
- 骨粗しょう症では、骨強度の低下により、歯の喪失が起こりやすくなります。

喫煙、糖尿病、骨粗しょう症と歯の喪失の関係



(図2) 教育歴が短いと歯の喪失リスクが増加

教育歴と歯の喪失リスクの関係

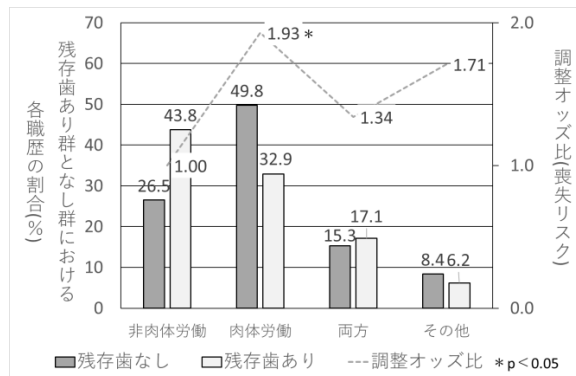


- 教育歴が短いほど、残存歯がない人の割合が高い傾向にありました。
- 教育歴が10年以上の人を基準とした、教育歴が6年以下の人の歯の喪失に対する調整オッズ比は3.07であり、短い教育歴の人の歯の喪失リスクは約3倍といえます。
- 教育歴は、歯磨き回数や虫歯の本数に影響を与えるとされており、口腔衛生習慣などの差が歯の喪失リスクに影響を与えると考えられます。

(図3) 肉体労働の職歴と歯の喪失が関連

- 残存歯なし群において、肉体労働の職歴の割合が高く、非肉体労働を基準とした肉体労働の職歴の歯の喪失に対する調整オッズ比は1.93であり、約2倍の喪失リスクがあるといえます。
- 肉体労働の職歴のある人が歯を喪失しやすいことは知られており、その背景には、交代勤務など仕事に関連した不規則な生活習慣などがあると考えられています。

職歴と歯の喪失リスクの関係



出典: Nakahori N, Sekine M, Yamada M, Tatsuse T, Kido H, Suzuki M. Socioeconomic status and remaining teeth in Japan: results from the Toyama Dementia Survey. <https://bmcpublichealth.biomedcentral.com/track/pdf/10.1186/s12889-019-7068-7>